

ZSプロジェクトとは

(1) 目的

機関リポジトリによるオープン・アクセス(OA)の効果を検証する。

機関リポジトリに登録することで新たな引用を引き起こすか？

OAの被引用数増効果に関する研究は多いが、分野別リポジトリ(arXiv等)だったり、OAであれば対象を限定しない研究だったり、**機関リポジトリに限定した研究はない。**
 「機関リポジトリに登録することによる効果」を検証する必要があるのでは。

(2) 方法

1. 日本動物学会の協力のもと、日本動物学会発行の国際ジャーナルである“Zoological Science”誌に掲載されている論文のうち、北海道大学、京都大学の所属研究者の発表論文をそれぞれの**機関リポジトリに搭載**する。
2. 機関リポジトリにおけるアクセスログ及びBioOneのアクセスログを分析(**論文がどれだけ読まれたかの調査**)
 平成20年度はここまで
3. Web of Science上の被引用カウントの変化を整理し、上記の利用記録と照合しつつ引用状況の変化の特性を抽出する。

Zoological Science

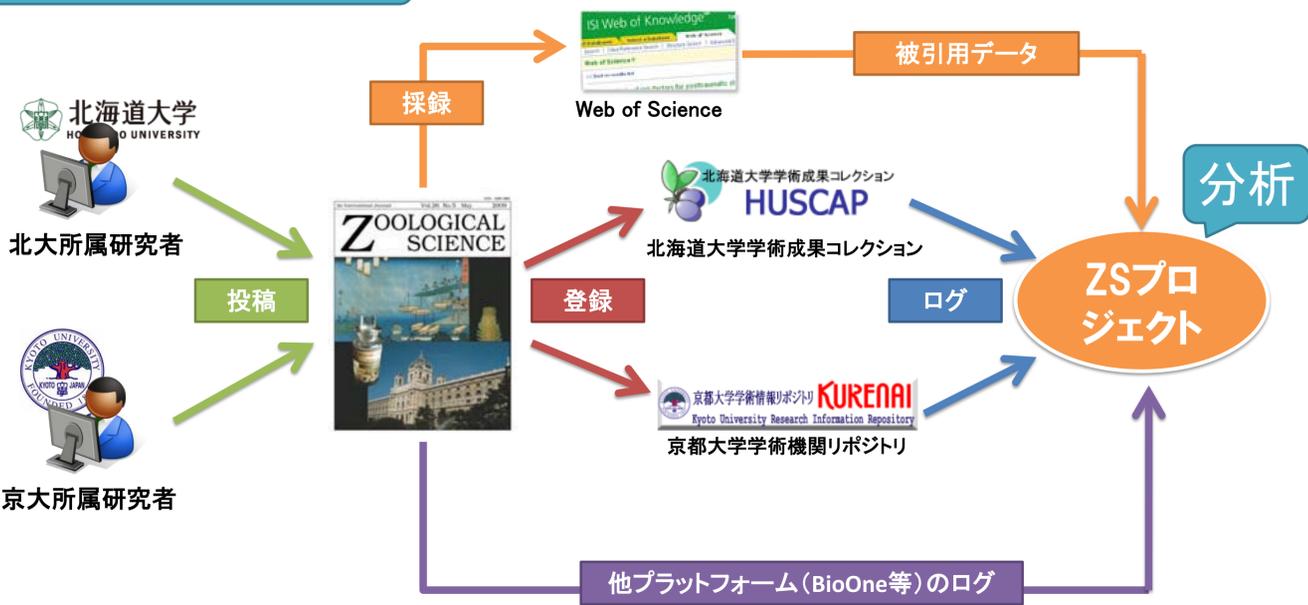
- 日本動物学会発行の月刊誌(1984年創刊)
- 動物学分野の原著論文、レビュー、エッセイ、短報を掲載
- 電子版はBioOne2, UniBio Press等から利用可能

JCR2008データ

- 掲載論文数: 152
- IF: 1.100
- 5年IF: 1.227
- 引用半減期: 6.4年



プロジェクトイメージ



平成20年度にやったこと

まずは機関リポジトリのログ分析を行ってみた。

佐藤翔. “誰が、何を、どこから読んでいるのか: アクセスログに基づく機関リポジトリの利用実態”. SPARC-Japanセミナー2008「日本における最適なオープンアクセスとは何か?」. 東京, 2008-10-14, SPARC-Japan, 2008 より

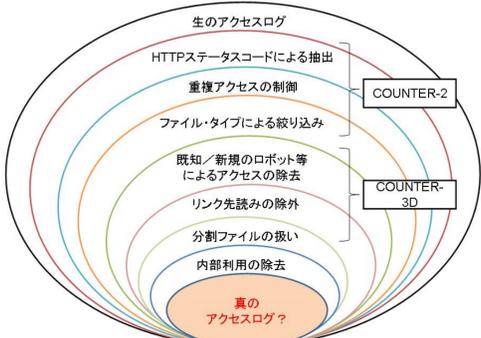
誰が？

何を？

どこから？

ログフィルタリング

人間が見たものだけを抽出。ROATプロジェクトと同様のフィルタリング(下記)を実施



佐藤義則. 動向レビュー: 機関リポジトリの利用統計のゆくり. カレントアウェアネス. 2008, (296), p.12-16. (<http://current.ndl.go.jp/ca1666>, 2008-10-07参照)

誰が何を？

HUSCAP, KURENAIのログから以下の傾向が認められた(よく読まれているもの)

1. 国内・研究者/学生
 紀要
2. 海外・研究者/学生
 原著論文(author version含む)
 英文紀要(back issue含む)
3. 企業
 工学・技術関係、経済関係
 学位論文(国内)
4. 民間
 医学・医療技術関係

原著論文もよくよまれている。原著論文への確かな需要が認められる！

※アクセス元国: トップレベルドメインで判断
 ※アクセス元機関: セカンドレベルドメインで判断

どこから？

海外からのアクセス
 = **ほとんどGoogle経由**
 日本からのアクセス
 = **検索エンジンが多いが多様(ブログ, Wikipedia, etc...)**

	HUSCAP	KURENAI
サーチエンジン経由	63.4%	69.8%
うちGoogle	57.0%	61.9%
リポジトリ内部	35.4%	29.4%
その他の参照元	1.2%	0.7%

※経路不明は除く

リポジトリ内部からのアクセスも元々は検索エンジン経由でリポジトリへ到達したアクセスが多く、ほとんどが検索エンジン経由と言える。

多様な種類の文献が、多様な人間に、多様なアクセス方法で読まれており、リポジトリはいろいろな役割を果たしている！

最大の参照経路は検索エンジンである。

- ① GoogleにIndexされることは重要
- ② 画像PDFよりテキスト付PDFが望ましい
- ③ 研究者は普段の情報探索行動から機関リポジトリの文献へ到達できているのか？

AIRwayに続く...